

古典文法 古文編

【大単元】	【中単元】	【小単元】	【時間】
第1章 古典文法の基礎	古典へのアプローチ	(1) 文法事項の基礎	16:26
	言葉の単位と文の成分	(1) 言葉の単位と文の成分	21:12
第2章 動詞	動詞	(1) 動詞の定義,活用表と活用形,活用の種類	20:00
		(2) 活用の種類の見分け方,活用形の見分け方	10:04
		(3) 自動詞と他動詞,本動詞と補助動詞	6:56
第3章 形容詞・形容動詞	形容詞	(1) 形容詞の定義と活用,形容詞の語幹の用法	10:29
	形容動詞	(2) 形容動詞の定義と活用	10:10
	発音と表記	(3) 音便	12:29
第4章 助動詞	助動詞	(1) 助動詞の定義と種類	20:09
		(2) 「る・らる」「す・さす・しむ」	12:21
		(3) 「き・けり」「つ・ぬ・たり・り」	15:47
		(4) 「ず」	9:48
		(5) 「む・むず」「まし」「けむ」「らむ」	18:17
		(6) 「じ」「べし」「まじ」「らし」「めり」「なり」	20:24
		(7) 「まほし・たし」「なり・たり」「ごとし」「ゆ・らゆ」「す」「ふ」	21:55
第5章 助詞	係助詞	(1) 係り結び(係助詞)	18:28
	助詞	(2) 助詞の定義と種類	9:20
		(3) 「の・が」「を」「に」「と」「へ」「より・から」「にて」「して」(前編)	15:04
		(3) 「の・が」「を」「に」「と」「へ」「より・から」「にて」「して」(後編)	14:57
		(4) 「ば」「とも」「ど・ども」「に・を」「が」「て」「して」「で」「つつ」「ながら」「もの・ものから・ものを」(前編)	16:40
		(4) 「ば」「とも」「ど・ども」「に・を」「が」「て」「して」「で」「つつ」「ながら」「もの・ものから・ものを」(後編)	13:45
		(5) 「だに」「すら」「さへ」「し・しも」「のみ」「ばかり」「まで」「など」	13:27
(6) 終助詞,間投助詞,奈良時代の助詞	17:59		
第6章 敬語法	敬語法	(1) 敬語の働きと種類	11:53
		(2) 尊敬語	11:09
		(3) 謙讓語	19:59
		(4) 丁寧語	7:16
		(5) 種々の敬語表現	9:25
第7章 その他の品詞	その他の品詞	(1) その他の品詞(前編)	11:39
		(1) その他の品詞(後編)	14:49
第8章 同音語の識別	文法解説	(1) 同音語の識別(前編)	15:10
		(1) 同音語の識別(後編)	16:56